

主図版① 「世界」



「唐～宋・古写経残巻(8)」

9～11世紀頃 伝・燉煌出土

僅か20行ほどの古写経の断簡である。
これも敦煌出土と伝えられるものの
である。やや字画が太く豪快な書風を

20行ほどの中に「世界」の文字が10回
ほど書かれている。今回はその内の9
回分を集字した(主図版①)。ほぼ同
じように書かれているが、子細に比較
するとそれぞれ微妙な筆勢の違いを見
ることができる。書風から年代を推定
して唐末から宋時代頃の作と考えた。

寶集世界 有佛寶勝 若人聞名 施不及一
舍利弗從此東方過八百世界有佛世界名
香積彼世界有佛名 成就盧舍那
阿羅訶三狼三佛陀現在說法若人聞彼佛
名受持讀誦憶念札拜超越世間五百劫

止めている。僅かであるが湾曲し重厚
な横画を示している。この文字の大き
さにしては、構成する字画は、太い。
作品を10数件紹介します。

今回で、中国写経は終了します。次回
からは、私が好きな近世から現代の書
作品を10数件紹介します。

この欄に関するご批評、ご意見、ご
希望、ご質問などをお聞かせください。
私宛に直接メールで、また編集部宛に
お送りいただければ幸いです。

伊藤滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院

平成の群像 (2016)

無墨稿



70×70cm



水 田 春 峰

「うわあ、落書きや！」子供の大きな声が大作の並べられた美術館の中にひびきわたった。

「王様は裸だ！」といわれた憐れな王様がその後どうなったのか知らないが、子供

の目に落書きと写ったものを「これは力強い迫力のあるりっぱな書です。」と云つて済ませるものだろうか。

書の道を歩む者にとっては自問自答しなければならないことだと思う。

日常生活の中で、

美しいとか気持ちがよいとか理屈でなく人の心や体に心地よく感じるものは物事を判断するときの規範となっている。日本の文化、日本の書の原点はこうした美意識が根底にある。

つまり、書は芸術である前に文化である。日本の書は世界に誇る文化として守っていかなければならぬという自覚を持つて

自らの進むべき方向を確かなものにしていきたい。

「書のコラボ」いろんな企画で楽しめてくれるが、視点が定まらず書の本質を見失いそうになる。

「書のパフォーマンス」（使いたくない言葉）書く行為を見て拍手が起こり、あっと目をひくもの、単なるアグの強いものなどが評価されていることが気になる。人間の深いところで感じあえるものが書であつて、文化や芸術が大衆の喝采をあげるものではないと思う。

昨年、恩地春洋先生のもとで私たちは、玄遠社展（大阪）日韓交流展も併設しながら65周年を迎えた。また、文春展（銀座文春画廊）は40周年という節目を迎えて歴史を歩んでまいりました。

今年2月、恩地先生は30年にわたってライフワークとしてきた「捨」の造形の終焉と題して個展を催され、「捨」の文字十数点を展示されました。

作品は、年代には関係なく新鮮で一点点に様々な表情を見せ存在感がある。独特な造形は魅力的で静かに語りかけるものがあり安らぐ。筆触、線の流れは強靭さと柔軟さを持ち誇張されたものが心地よい。墨色も澄んで美しい落着かてくれる。

懸命に磨きあげられた技法に精神も共に磨かれ、書の究極の美が滲み出ていると云える思索する会場であった。

文化は長い歴史の中で積み重ねられ厚みと重みのあるものだ。

恩地先生の書の中には、失われかけている深いところにある日本人のアイデンティティを感じました。共有できれば幸せです。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

(公財)書道芸術院定例理事会開催

3月12日（土）午後、公益財團法人書道芸術院の定例理事会が本院事務所にて開催された。1名の欠席で定足数を満たした。

議案は平成28年度事業計画及び予算案、ほかに創立70周年記念事業内容、

第70回展昇格人事などを審議した。報告事項として大分にて開催予定の単位認定講習会、秋季展、創立記念日講演会などで、別掲の院報にて詳細を報告している。ご確認を。

第160回全日本書道連盟理事会

3月10日（木）午前11時より上野精養軒にて公益社団法人全日本書道連盟理事会が開催された。

1 書写書道教育推進協議会の活動状況報告 中教審の動向、書道国会議員連盟（約90名参加）との連携、推進基金（3月現在約900万円）の協力などが報告され今後さらに運動を開拓していく予定。

2 日本書道ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会の活動報告 「日本の書」書き初めを特筆して」「日本書道ユネスコ無形文化遺産登録を申請登録として本年より全国的にキャンペーントを展開する。（別掲）

・賛同団体署名の集約を各県ごとに担

当委員を委嘱し6月末をめどに行う。本院から宮城県担当千葉蒼玄氏、群馬県担当金井如水氏、高知県担当大野祥雲氏、千葉県担当辻元大雲など各县一人が委嘱され、3月15日に関東ブロックの説明会が開催された。

書道芸術院としても協賛団体として運動に協力する。ご支援をよろしくお願いしたい。

3 平成28年度事業計画案、同予算案審議。ほぼ例年並みの事業計画を行われる。

4 夏期書道大学講座 本年8月5日～7日、昨年と同じ池袋サンシャインシティにて開催される。日程・講師等は6月総会にて発表される予定。

5 その他 平成27年度助け合い募金（400万円余が寄せられた。）日赤、中国大使館などへ寄付。助成申請（県、市町などの書道団体の活動への助成を行っている。県段階で上限10万円、市町単位で上限5万円助成する。）

高野山開創1200年記念献書事業への協力。招待作家222名、推薦作家714名、計936名から献書が寄せられた。本年11月8日～13日、大阪島鳥リバーホーラムを会場に全作品が展示される予定。

6 参与・評議員への昇格人事は次回理

スコ文化遺産登録推進協議会が開催され、主に運動推進のための基金の募集について協議した。

今後5年間（2020年登録を目指して）の活動資金として総額300万円を毎日書道展、読売書法展、産経国際書会はじめ用具など業者関係を含め基金のご協力をお願いすることになった。本年4月より6月末日までを募集期間としてお願いする。

本院としても先の理事会にてご検討いただき、その他事業の予算にて協力する予定。ご理解いただきたい。

団体署名については前述の通り各県ごとの担当者のほか、毎日展、読売展、産経展参画団体はそれぞれの展覧会事務局より団体署名の依頼が寄せられていることになっている。

3月15日に関東ブロック、3月17日九州沖縄ブロック、3月22日北陸東海ブロック、3月25日近畿中国四国ブロック、3月28日北海道東北ブロックそれぞれ担当委員に対する説明会が開催される。あくまで団体署名で、地方行政単位の長、書道団体責任者、民間施設長など責任者の署名をいたたく予定。各県30～40団体の署名を目指とする。

署名集約期間は本年5月末日を設定する。ご協力を切にお願いしたい。

・各県担当者（敬称略）

第68回展より会員へ昇格される皆さんの書展がアートサロン毎日にて開催された。本院関係者は以下の通り。

第一期（3／7～12） 稲村由宇記、阿部恵泉、高橋四蓮、桑島有子

第二期（3／14～19） 大川代香、佐藤星沙、木佐貫鮮水、高原梨秀

第三期（3／21～26） 浜口瑞香、野口加奈

第4期（3／28～4／2） 鈴木承琳、横井正江、和田敬子

埼玉 有岡郷屋、

東京 協議会、神奈川 船本芳雲

山梨 大橋洋之、長野 一色白泉

新潟 薄田東仙、福井 阿波加蒼岳

石川 千場昇龍、静岡 平形精逸

滋賀 中村史朗、三重 工藤俊朴

大阪 福山大轟、京都 日比野実

兵庫 滋賀裕之、和歌山 舟尾圭碩

島根 佐々木龍雲、広島 重本天空

岡山 柴山抱海、福岡 大野祥雲

愛媛 三浦白鷗、香川 長崎 奥山義治

山口 大川峯雪、高知 大野正行

徳島 伊丹東龍、島根 佐々木龍雲

愛媛 三浦白鷗、高知 大西きくゑ

山口 大川峯雪、福岡 野田正行

佐賀 竹之内幽水、長崎 奥山義治

熊本 井上邦子、大分 荒金大琳

宮崎 岩切天穂、鹿児島 松清秀仙

沖縄 茅原南龍

毎日書道展新会員展開催

第68回展より会員へ昇格される皆さんの書展がアートサロン毎日にて開催された。本院関係者は以下の通り。

第一期（3／7～12） 稲村由宇記、阿部恵泉、高橋四蓮、桑島有子

第二期（3／14～19） 大川代香、佐藤星沙、木佐貫鮮水、高原梨秀

第三期（3／21～26） 浜口瑞香、野口加奈

第4期（3／28～4／2） 鈴木承琳、横井正江、和田敬子

・賛同団体署名の集約を各県ごとに担

千葉 辻元大雲

神奈川 船本芳雲

山梨 大橋洋之、長野 一色白泉

新潟 薄田東仙、福井 阿波加蒼岳

石川 千場昇龍、静岡 平形精逸

滋賀 中村史朗、三重 工藤俊朴

大阪 福山大轟、京都 日比野実

兵庫 滋賀裕之、和歌山 舟尾圭碩

島根 佐々木龍雲、広島 重本天空

岡山 柴山抱海、福岡 大野祥雲

愛媛 三浦白鷗、高知 大西きくゑ

山口 大川峯雪、高知 大野正行

徳島 伊丹東龍、島根 佐々木龍雲

愛媛 三浦白鷗、高知 大西きくゑ

山口 大川峯雪、福岡 野田正行

佐賀 竹之内幽水、長崎 奥山義治

熊本 井上邦子、大分 荒金大琳

宮崎 岩切天穂、鹿児島 松清秀仙

沖縄 茅原南龍

現代詩文書（一）

畠中弄石

詩文書を取り組むにあたって

現代詩文書作家にとって必要なことは何といつても感性を磨くことです。多くの詩歌集中から心に響くことばかりを漁る楽しみを通して語感、語彙力を豊富にするのもそのための準備と言えます。

また有名な実力作家の展覧会（書、絵画、陶芸等）へ足を運ぶのも、あるいは自然の懷へ入り、美しい作品、風景、水音に耳を傾け、視覚・聴覚を養谷川俊太郎詩「美しい夏の朝に」



太郎詩の「美しい夏の朝に」の中の一節です。俊太郎氏はすでに現在詩壇の巨匠です。にもかかわらず、弱者への思いやりは誰よりも強く、その人たちに応援活動を続けています。続きは次号にて――

うことも意義深く、日常の中に取り入れていることです。

焼きものを例にとれば、良い焼きものばかり見ていると良くないものはすぐ分かる。反対に普段日常の大したものではないばかりに接していると良いものが分からなくなる。

書作品においても当然言えることです。

さて、今回の作品は谷川俊

太郎詩の「美しい

夏の朝に」の中の

――私の主張――

21世紀の書

漢字（一）

稻垣小燕

・大字書の可能性

私は漢字作品の中でも主に大字書を中心におこなってきました。この度この稿を担当にあたり大字書を中心にして行こうと思います。

21世紀目まぐるしいI・Tの進化の中で社会全体から書ばなれている現象は否めません。それ故に筆で文字を書くことの大切さや意味を再認識し、書の可能性、加えて書家としての使命を考えたいと思います。

2013年に明日香に於いて「四神恩寵」と題した展覧会を開催し、キトラ古墳の壁画「四神（青龍・白虎・朱雀・玄武）」を書に置き換えて表現することを試みました。四神の絵は文字の発生に遡る象形文字の役割をもちますが、これを単なる記号としてではなく、鑑賞に値する文字に仕上げること、即ち芸術としての域を示す書にすることが書家としての立場に立った使命と考えての取り組みでした。

それでは鑑賞に値する書とはどのような書を意味するのか、また書家としての使命とはどのようなものなのか。さらには21世紀における書そのものの可能性はどこにあるのかなど考えて行きたいと思います。



「四神恩寵」(写真上段／2013年　於：明日香)

(本稿では「書」を「筆で書く文字」の意味としました。)

書道芸術院春華賞

〔花〕



木村 筏園



現代詩文書部
木村 筏園

このたびは栄えある春華賞をいただき、感謝と感動で胸が震える思いです。

多くの先生方の御指導を頂き、書友の皆々様に支えて頂いたお陰と、心より深く感謝申し上げます。

このたびの受賞作は柔らかな日差しのなか、温かい風に誘われて、白い鶯の花が天空を翔んでゆく情景を表現したものです。空を見上げては思いを重ねました。詩との出会いを一期一会とらえ、不器用ながらも私なりに最高の形で世に送り出したいと願っていました。

日常の事から離れ、書と向き合っている時間が、不思議にも書の神様から与えられた時であると思えた作品制作でした。

これからも身を引き締め、一つひとつ精進を重ねてまいりたいと思います。よろしくご指導をお願いいたします。

第69回書道芸術院展

〈1〉

〔うつり行く〕



京 絹子



かな部
京 絹子

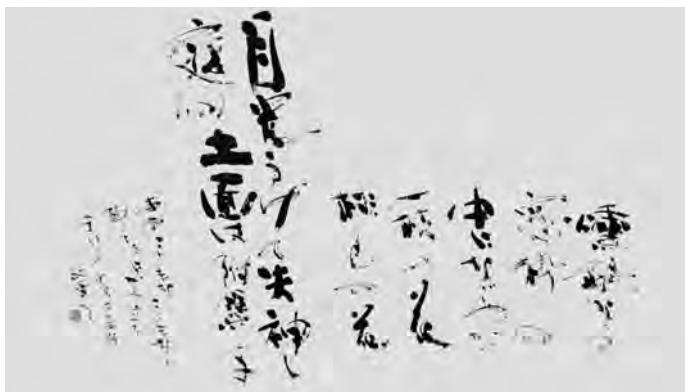
この度、栄誉ある大賞を頂き誠にありがとうございました。

これもひとえに書道芸術院の諸先生方、なにより恩師であります下谷洋子先生、書泉会の書友の皆様、また応援してくれた家族のお陰と感謝の気持で一杯です。

私は1年に一つの古典臨書を目標に長年練習してまいりましたが、残念ながら創作が上達せず悩んでおりました。そんな時下谷先生との出逢いが私の書を少しずつ変えて下さったのだと思いります。長い歳月の鍛錬の中で知らず知らずのうちに古典が数多く蓄えられていき、その一つひとつが先生のお力添えによってこの栄えある大賞に繋がったのではないかと感じております。

大好きな書道を続けられる環境に感謝し、これからも一層努力してまいりますので今後共ご指導よろしくお願いいたします。

書道芸術院準大賞



「春の夜」

小野原紅華

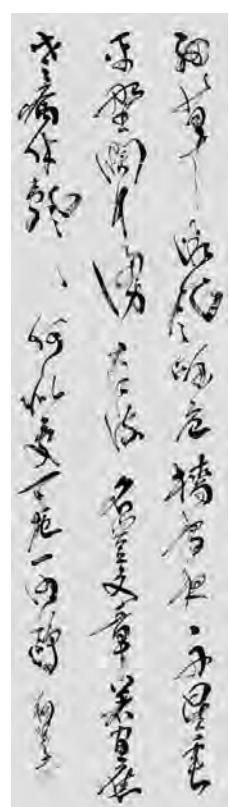


大野
清玉



「虹色」

後藤恭



高安
翔琴



「北上山地の春」

佐々木一峰

特集：第69回書道藝術院展

白雪紅梅賞

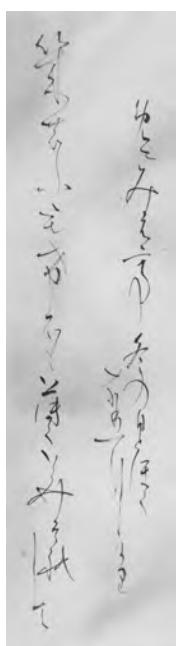
「送張子尉南海」

「雪中の駒」



生田
珠翠

「目に見えて」



藤村
昌子

白晉
清無
朱曉
正平

相澤
正華

一簾花事事妍



田代
明眸

A black and white photograph showing a close-up of a dark, textured surface, possibly a piece of wood or bark, with some lighter, irregular shapes visible.

「創」

石黒 和喜

A vertical black and white photograph showing a person from behind, seated in a chair and facing a window. The person is wearing a dark top and light-colored pants. The view through the window shows a landscape with trees and possibly a body of water or a clearing.

一
昇

一望山

岱宗夫如何，齐鲁青未了。
造化钟神秀，阴阳割昏晓。
荡胸生曾云，决眦入归鸟。
会当凌绝顶，一览众山小。

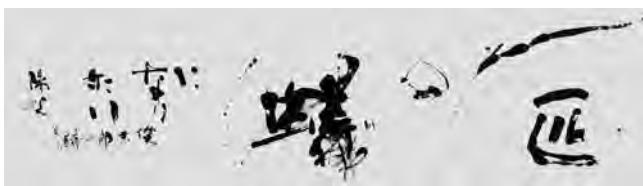
23

南歸詩
不覺寒風急
一舟如葉裏
乘風逐浪行

「賈島詩」

宋齊嚴使君破故封筒有枯苔研墨
夢裏金盞聽竹管已半經霜在故人先
事如解談你事箇散弓因風滿竟日
飛還空却需一層吹了一聲難盡言

山嶠
雲夕



「谷川俊太郎の詩より」

岩崎 陽光

皇甫誕碑（唐・歐陽詢）①

（解説）皇甫誕碑は、隋王朝に仕えた名臣の一人である皇甫誕（554-604）の頌徳碑である。唐代にその子の無逸が立碑した。文の撰者は于志寧、初唐三大家の一人歐陽詢の書である。細く引きしまった

線を用いて、背勢で強い右肩上がりの結構法で書かれており、初唐を代表する楷書のひとつである。碑は陝西省博物館（西安碑林）第2室に現存する。

（編集部）

特別研究部臨書課題

II（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。
当該古典の左記掲載部分以外も可。

(85%縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

顧激清風於後葉抗
名節於當時者見之
弘義明公美若諱誕
字玄憲安定朝那人



※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

〈よみ〉ときはなるまつのみどりもはるくれ

著者 ぱいまひとしほのいろまさりけり源宗子

能利のきしのひめまついくよへぬらむ

能利おもへばひさしすみよしの松安法々師

能利あまぐだらあらひとがみのおひあひ

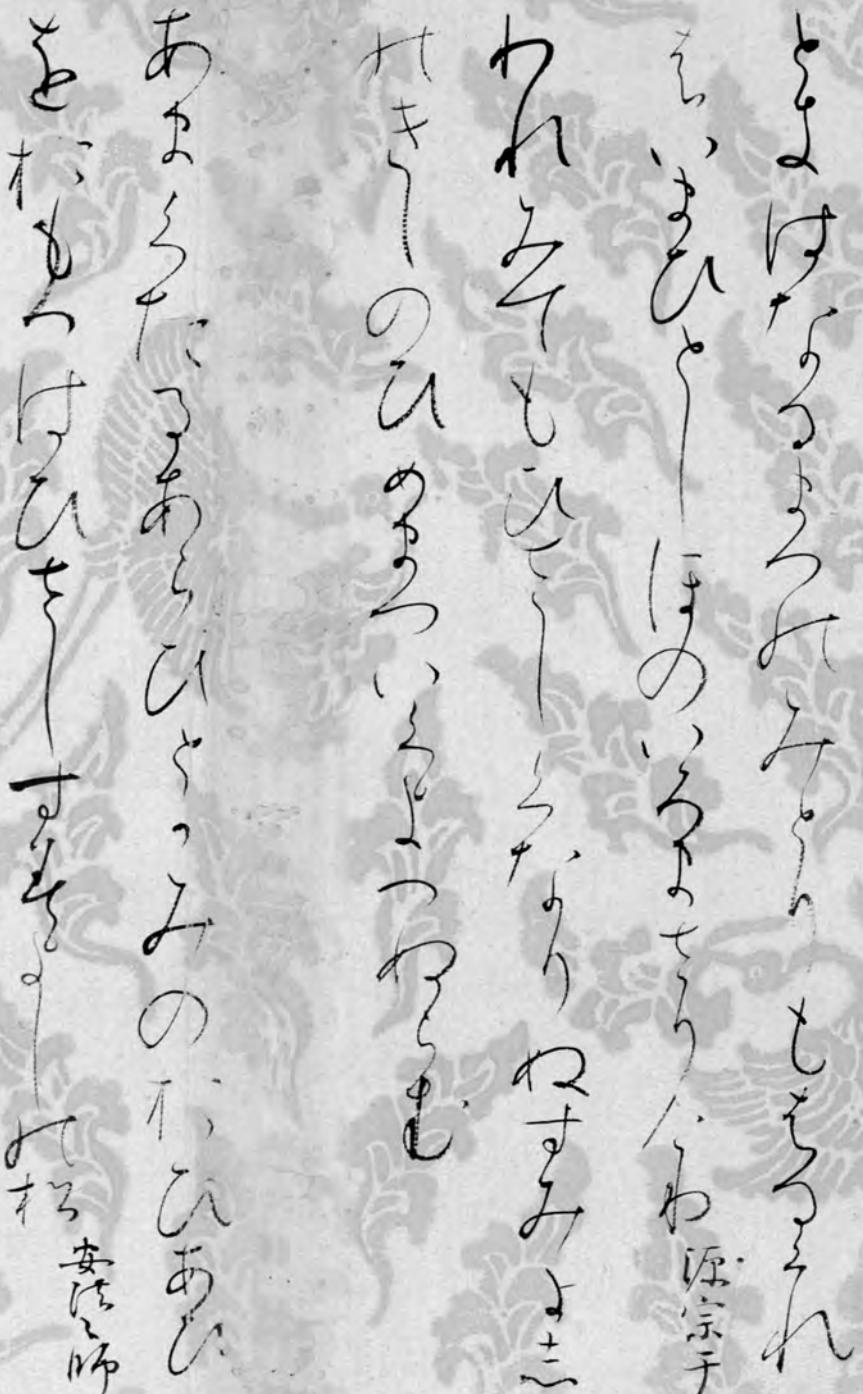
能利をねもへばひさしすみよしの松安法々師

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全障も可)



(宮内庁蔵)

〈解説〉宮内庁の三の丸尚
蔵館所蔵の和漢朗詠集には、
伝藤原行成筆「粘葉本和
漢朗詠集」(上下二冊)、
同「雲紙本和漢朗詠集」
(二巻)、伝藤原公任筆「卷
子本和漢朗詠集」(一巻)
の完本三部と、伝源俊頼筆
「安宅切」(一巻)の零本
(内容の一部が欠けている
本)一部がある。

粘葉本和漢朗詠集の名は、
原本の装丁が、二つ折りの
料紙の背に糊代を作り、糊
で重ね合わせた粘葉装で
あることにちなむ。

この粘葉本は、洗練され
た和様の漢字(楷書・行書・
草書)と端正優美なかな
(平かな(女手)・草かな)
が見事に美しく調和してい
る。藤原行成の筆と伝えら
れ、11世紀中頃の書写と推
定される。

(編集部)

※かなの部分のみ掲載し
ます。

※掲載図版は原寸。

習い方解説 (一)

半田 藤 扇

萬古清風
(万古の清風)

(李舒)

つきせぬ清き風。限りないすず
しい風。

今月より担当いたします。

行書の中でも、親しみ易い、褚遂
良の「枯樹賦」の書法・書風に取
り組みました。

文字の点画の細部、筆勢や筆法
などが特徴です。更に品格が加わ
ると行書の巧妙な作になると思いま
す。

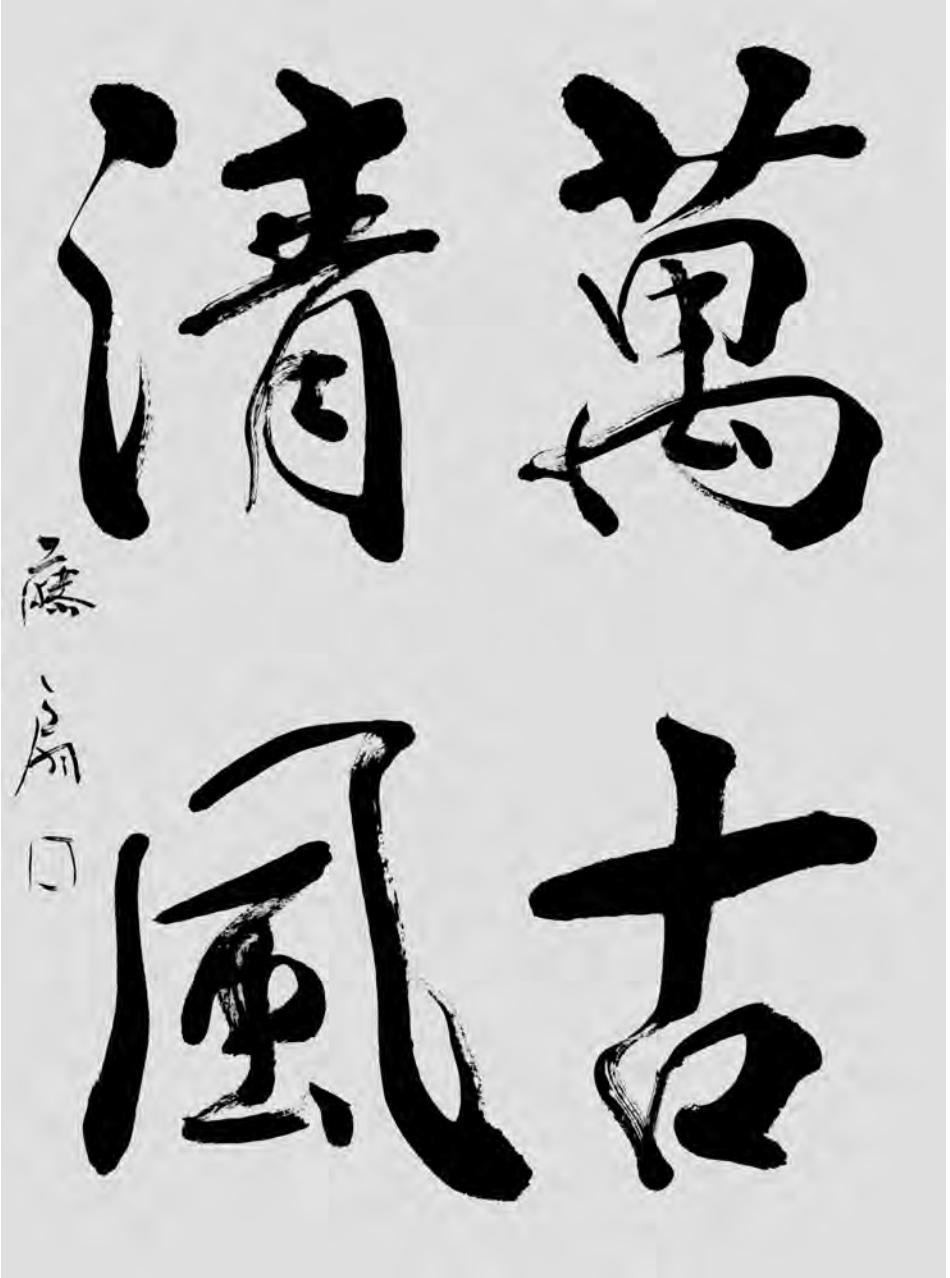
「古」以外は、画数が多くなりま
すのでいろいろな表現力が生み出
ます。

楷・行・草・篆・隸と書体が、
羊毛で鋒が3mm程の細い筆で書
作してみました。

いろいろあるので各々の分野に挑
戦してみるのもよいと思います。

萬古清風 よみ(万古の清風)

書体=自由



習い方解説(一)

竹本龍汀

瑞色含春
(瑞色春を含む)
(楊巨源)

めでたい色が春を帯びる



書体=楷書

瑞色はめでたい色という意味で、華やかな空気感を思い浮かべた時、初唐の褚遂良の用筆法で書こうと思った。隸意を残した沈着な孟法師碑より点画の躍動感のある雁塔聖教序に依った。

そのまま雁塔聖教序の倣書として書くと、細くて字形の変化もあり、用筆も多様で随分難しい。そこで原帖より太目に変化を抑え気味にして、横広と安定感を残して表現した。

楷法は字形の安定感と俯仰法、点画の律動感が特徴だ。筆の弾力を生かし俯仰法を駆使して線を沈めることに留意しながら、踊りのステップを踏むように楽しく律動感のある生き生きとした運筆で楽しく書くことに努めた。

瑞色含春 よみ(瑞色春を含む)

習い方解説 (一)

下谷洋子

月みれば風に桜の枝なべて
花かとつぐるこいぢこそすれ
(山家集)

月夕かとづくぞ

月の枝をもゆて

月夕かとづくぞ

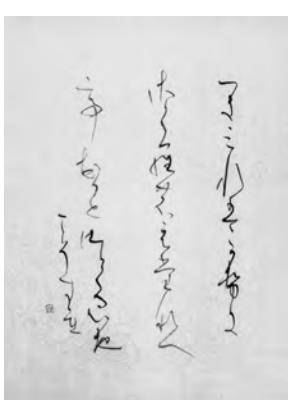
酒

創作

高階秀爾氏の「日本人にとって
美しさとは何か」を読むと、かな
の美が少し解るかと思います。
かなは、成立当初こそ均整のと
れた姿をしていましたが、徐々に
奔放になり、一字の形、行の流れ、
全体の構成も動きが出てきます。
アンバランスのバランスでもある
この自由な展開は、日本の建築・
庭園・日本画など日本的な表現に
おいても共通する日本人の美意識
でしょう。本の帯にも書かれてい
る“大胆に切り捨てる（省略）・
多様な要素を取り込む”や間（余
白）等々の日本の美。今回は、か
なの美を考えながら回を進めてい
きたいと思います。

△参考▽

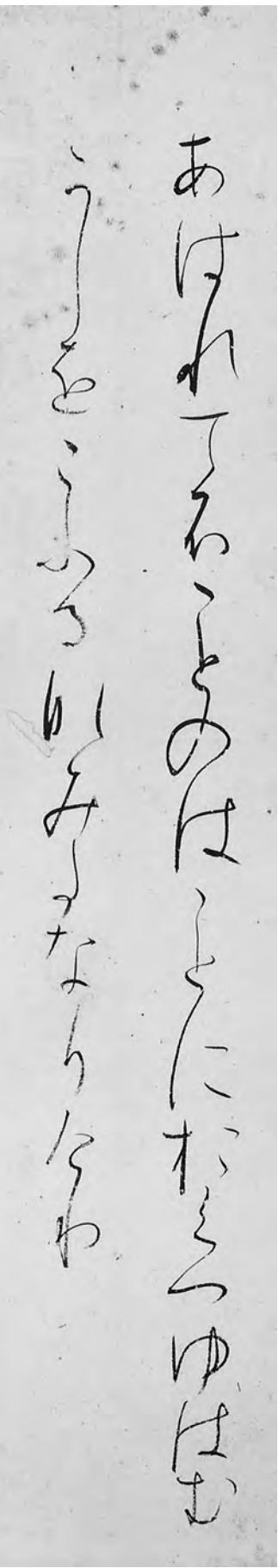
よみ方 月み(見)れば(盤)風(可せ)に(一)櫻(佐久ら)の枝な(奈)べ(遍)て
花かとつ(徒)ぐ(久)るこ(こ)(一)ち(知)こそすれ(連)



かな規定 秀級以下【五月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 あはれてふ(不)ことのは(こと)にお(於)(久)つゆはむ

か(可)しをこぶるな(那)みだ(多)なりけ(介)り(利)

習い方解説 (一)

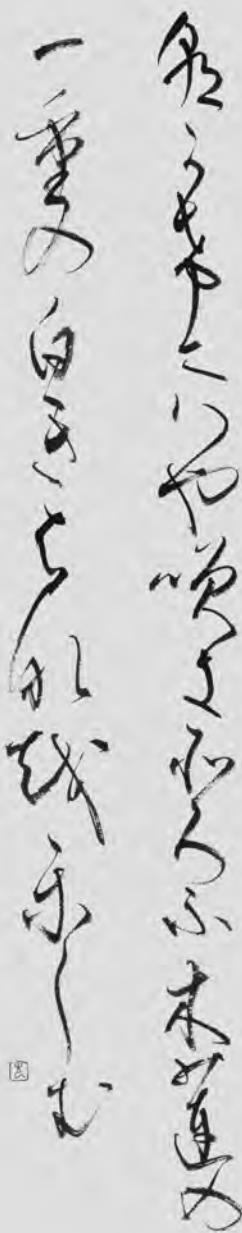
木村 東舟

かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村 東舟選書

朝かけに早や咲きそろふ木はちすの
一重の白き花を楽しむ
(北原白秋)

名の字からわかるように筆を運んで書く



清々しい朝、木蓮を眺める様子
を詠んでいます。

軽快に運筆出来るように、連綿する箇所は、前の文字の最終画から、次の文字の1画目まで続けて書きます。文字の大きさ、墨の潤渴のバランス等を考え、全体的に重くなり過ぎぬよう気を付けましょう。誤字を避けるため、辞書で必ず確認して書いて下さい。

創作

よみ方
一重の朝(あさ)か(可)げ(希)に(一)は(早)や咲(さ)き(支)そ(所)ろふ木(木)は(ち)す(蓮)の
白き花(花)を(越)楽しむ(む)

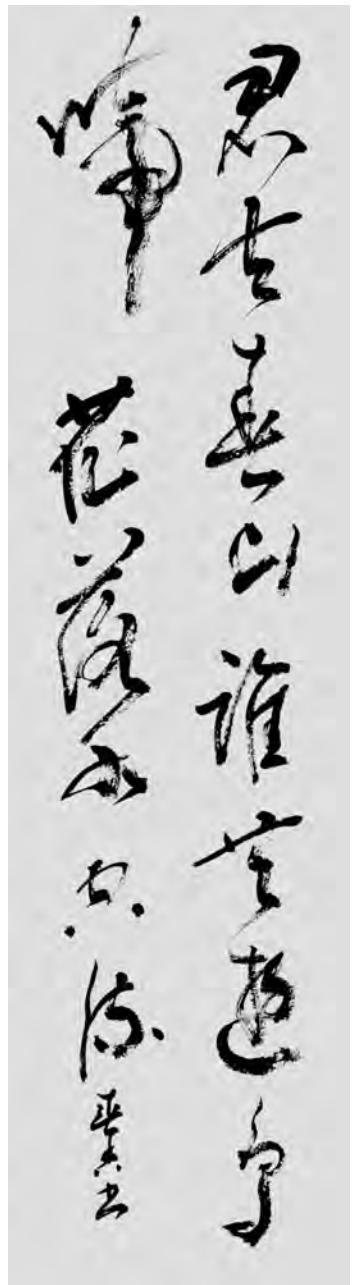
*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯田春香選書

習い方解説 (一)

飯田春香



書体=自由

今月号から9月号まで担当します。この詩は劉商が友人・王永の旅立ちを惜しんだもので作者の寂しさが伝わってくる詩です。その情景を想い描きながら書いてみましょう。今回は墨量を控えめにし、渴筆を活かし重たくならないよう仕上げました。

*たて形式に限る

習い方解説 (一)

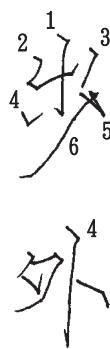
尾形澄神選書

漢字条幅規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

尾形澄神選書



書体=自由



常に百歩の遠い所を見る、の意。漢字研究部の皇甫誕碑を骨格に置き、そこに少しだけ行意(行書の筆意)を加えました。筆は柔らかく弾力のある細身の兼毫長峰、9月号まで同じ筆を使います。

見百歩之外 (韓非子)
(百歩の外を見る)

「外」の3画目から4画目へ向かうハネを殊更強調する必要はない。

習い方解説

(一)

廣瀬舟雲

おこれる人も久しからず
たゞ春の夜の夢のじ
たけよゝ者もついに
は減ひぬいともに風の
前の塵に同じ舟雲かく

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

「上達のコツ」は、なめらかで書きやすいペンを見つけることです。安価ながら何でもいいことは、やめましょう。現在では多くの種類の筆記具が市販されていますので、一つひとつ丹念に試してみて下さい。自分に合い、力を存分に発揮できるものがきっと見つかります。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

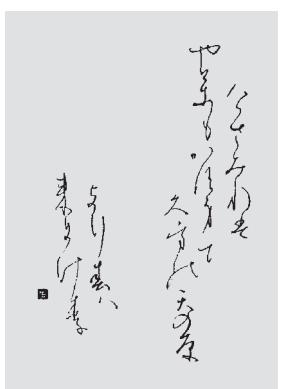
今月の

ホープ作品
各部総評 No. 658

かな部 師範 優田由美子

参考手本を丹念に研究し、作者の個性と高度に調和させた。伸びやかで古典美が漂い味わい深い。

◎かな部総評 一部墨色の冴えないものを除き、誤字も少なく十分学習されていた。この上は独創性豊かな作品を期待する。(明子評)



漢字条幅部 師範 蔵村 登美
切れ味鋭く、爽やかな作。渴筆がリズムを醸し、窮屈さを感じさせない明るさがある。

◎漢字条幅部総評 上級20字はやや小ぶりにまとまつた作多し。下級4字表現は粗さが目立つ作もあるが大胆な取り組みに好感。(大雪評)



現代詩文書部 特選 渋谷 蛍江

ゆったりと街のない運筆の中にシャープな渴筆が冴え、行間の余白も美しく、格調の高い作品。

◎現代詩文書部総評 余白美を求める作品が多く、詩文書への質的向上を見る。(弄石評)



かな条幅部 四段 白井 真理

手本を丁寧に観察理解した真摯な佳品です。この上は硬くならず

にリズムの撓やかさをつかむこと。

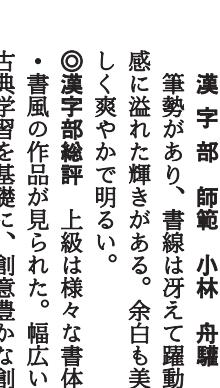


◎かな条幅部総評 かなの変体がなは漢字の草書です。接筆の処理によっては誤字や他の字になります。十分な解釈を。(洋子評)

前衛書部 特選 相内 菜摘

モービルのようなバランスを基調に据え、天地左右に広がりを持たせた。丁寧な運筆が好感を誘う。

◎前衛書部総評 迫力ある作品多く感動。用紙への配慮もあり着実なレベルアップを感じた。(慧香評)



漢字部 師範 小林 舟羅
筆勢があり、書線は冴えて躍動感に溢れた輝きがある。余白も美しく爽やかで明るい。

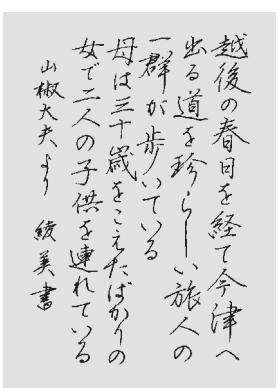
◎漢字部総評 上級は様々な書体古典学習を基礎に、創意豊かな創作を期待しています。(萬城評)



ペン字部 師範 川崎 綾美

漢字・かなの字形とともに均整がとれ、美しい。気脈が貫通し、流動感溢れる筆致が巧み。熟練の作品が大半。流れの美しいかなは連綿の休みどころの要領を理解することが大切です。(紅瑠評)

◎ペン字部総評 行書・かな連綿作品が大半。流れの美しいかなは連綿の休みどころの要領を理解することが大切です。(紅瑠評)



越後の春日を経て今津へ
出る道を珍らしく旅人の
一群が歩いてくる。
母は三十歳をこねばかの
女で二人の子供を連れてくる
山椒大夫 綾美書

今月の

特別研究部優秀作品(特選)



井上芝雲書

176×56cm

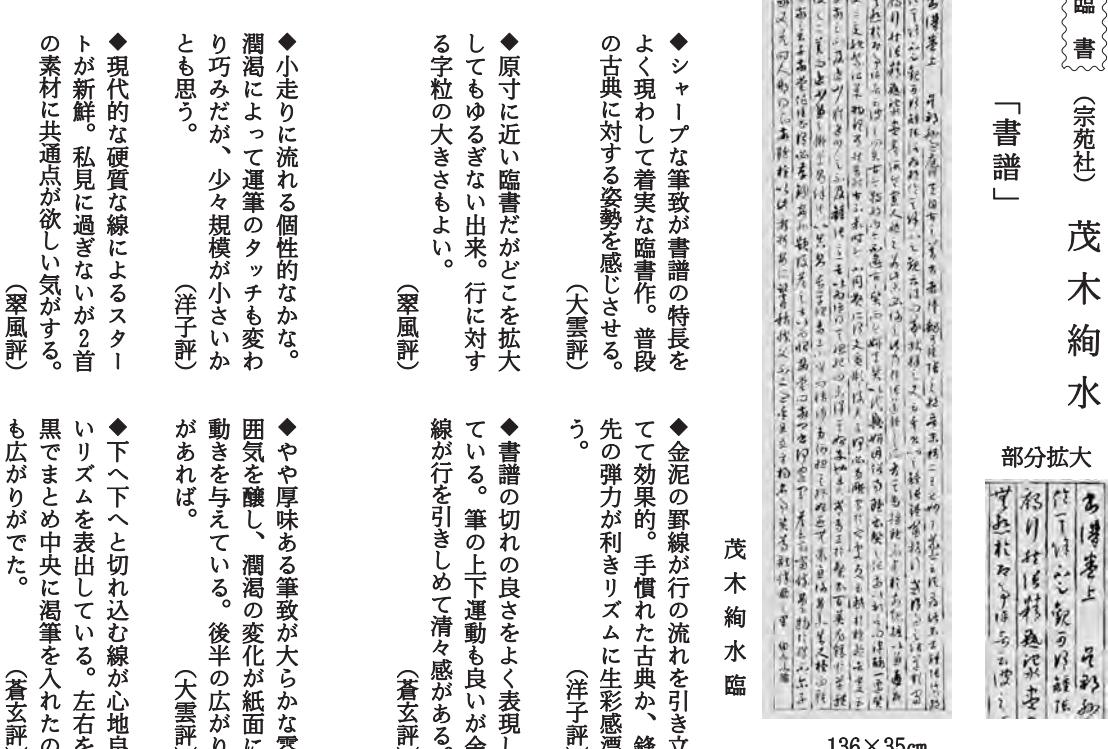
かな (八街) 井上芝雲 「藤波」

◆大胆な上部の構成と下の細字がうまく調和している。墨のじみも良いが線の動きがそれを助けている。

(蒼玄評)

◆前衛のような筆の開きに紙面が支えられ、雄壯な雰囲気に圧倒。小さい字が少々難な感、残念!

(洋子評)



部分拡大

136×35cm

「書譜」

臨書 (宗苑社) 茂木絢水

現代詩文書 (大拙社) 畠中成山



60×180cm

「海鳴る風」

◆青淡墨の変化を生かし、大胆な展開の作。中央部やや寂しいか。下部の細字は更に工夫したい。

(大雲評)

◆前衛のような筆の開きに紙面が支えられ、雄壯な雰囲気に圧倒。小さい字が少々難な感、残念!

◆前衛のような筆の開きに紙面が支えられ、雄壯な雰囲気に圧倒。小さい字が少々難な感、残念!

(洋子評)

◆シャープな筆致が書譜の特長をよく現わして着実な臨書作。普段の古典に対する姿勢を感じさせる。

(大雲評)

◆原寸に近い臨書だがどこを拡大してもゆるぎない出来。行に対する字粒の大きさもよい。

(翠風評)

◆小走りに流れる個性的なかな。潤渴によって運筆のタッチも変わり巧みだが、少々規模が小さいかとも思う。

(洋子評)

◆現代的な硬質な線によるスタートが新鮮。私見に過ぎないが2首の素材に共通点が欲しい気がする。

(翠風評)

◆金泥の野線が行の流れを引き立てて効果的。手慣れた古典か、鋒先の弾力が利きリズムに生彩感違う。

(洋子評)

◆書譜の切れの良さをよく表現している。筆の上下運動も良いが金線が行を引きしめて清々感がある。

(蒼玄評)

◆やや厚味ある筆致が大らかな雰囲気を醸し、潤渴の変化が紙面に動きを与えている。後半の広がりがあれば。

(大雲評)

◆下へ下へと切れ込む線が心地良いリズムを表出している。左右を黒でまとめ中央に渴筆を入れたのも広がりがでた。

(蒼玄評)

臨書 (英峰会) 吉瀬彩雨

前衛書 (秀水會) 坂井初江 「航」

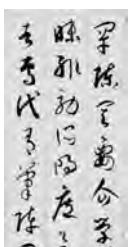


「書譜」

◆上部の鮮明な筆致と飛沫が印象的な作。下部やや重くまとめたが、今一つ歯切れがはしかったか。
(大雲評)

◆直と曲、静と動、白と黒、前衛の目指す対局を表現して单纯化した作。上部の飛沫も輝きを増している。(倉玄評)

部分拡大



◆偶発的に生まれる飛沫の一つひとつに表情があつて面白いと思った。太陽の「航」人生の「航」を想う。(翠風評)

◆上下の墨の分量、凝縮と拡散のバランスに知的さがじみ、垢抜けた趣。飛沫がきれい。(洋子評)

坂井初江書



133×60cm

現代詩文書
(もくせい文)

(もくせい会)

西川藤象書



西川藤象書

70×135cm

◆肉筆による草書古典の雰囲気のよく出ている臨書。渴筆が今少し加わると生き生きした作になろう。(翠風評)

◆鮮やかな黄色染紙に上品の中にひき締まった細線が冴える。行間字間のバランスもよくまとまりあり。(大雲評)

◆墨の濃度や紙の色にもようのだろうが、品よく柔らかい表情の臨書作。自然に街いなぐ練度が高い。(洋子評)

◆書譜を上品にまとめた。太細のバランスも良いが細い線はもう少し強さがほしい氣もする。(倉玄評)

◆筆を沈めた太い線が印象的。淡々とした行書きを、この野太い線と微妙な細線が彩る。新風を感じる。(洋子評)

◆線の太細をうまく使い、突き刺すような細い線とたっぷりとした黒の線が対照的だ。名前が少し弱いか。(倉玄評)

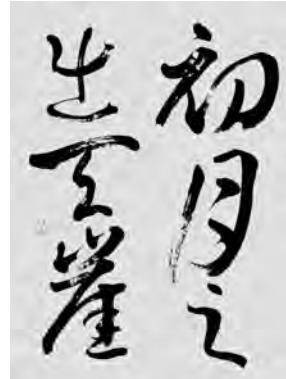
◆のびやかな筆致が余白を鮮明にし、明るい作。後半やや曲線的なくねりが気になる。落款ももう少し。(大雲評)

創作の部(50点)		漢字 - 8点		かな - 5点	
漢字	かな	前衛	現代	漢字	かな
1 - 0点	22点	1 - 15点	22点	1 - 34点	1 - 4点
前衛書の部(38点)	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字
88点	総出品点数	88点	総出品点数	88点	総出品点数
〔特選候補者〕	〔創作の部〕	〔漢字〕	〔漢字〕	〔漢字〕	〔漢字〕
高崎根津植松梅田大雲佐藤千葉猪又香書大木清香「漢字」 〔臨書の部〕	月華中塩朱華祥紫錢谷香秋「かな」 〔現代詩〕	松延藤原三枝子大雲松永高村光霞「かな」 〔書景京〕	蓮紅大友朱華雪蘭「かな」 〔絹子〕	香琴大友紅蓉「かな」 〔絹子〕	雅邦竹浪叙舟「かな」 〔雅邦〕
根本雅子	根本雅子	根本雅子	根本雅子	根本雅子	根本雅子

漢字研究部
(書譜)

選評 小伏小扇

今月のホープ作品



鷺山美梢

漢字研究部 特選 鶩山 美梢

よく洗練された線質で、書譜の躍动感が、忠実に再現され秀逸である。

特に「初月」は、書譜が推奨する義之一の十七帖を連想させられ、いつまでも眺めていたい作品である。

◎漢字研究部総評

もともと標準的な草体で、変化縦横でありますながら、調和美をそなえた書譜には、沈着な



翠光桂綾翠
水綾琴玉美彩

祥ま睦麗孫弦
つ雲江月子功佳

美正陽雅恵香
理和子光泉子舟

雅多小哲琴一
悠佳秋子樺琴

部分、感情のはげしく現われた部分などがあります。臨書に当っては、それぞれの部分をよく観察し、筆の動き、心の働きを見極めて特徴を逃さないよう、沈着に書かれたところは、より沈着に、感情が荒々しく現われているところは雄大に臨書してみることをおすすめします。墨は濃墨使用がいいと思います。

ります。臨書に当っては、それぞれの部分をよく観察し、筆の動き、心の働きを見極めて特徴を逃さないよう、沈着に書かれたところは、より沈着に、感情が荒々しく現われているところは雄大に臨書してみることをおすすめします。墨は濃墨使用がいいと思います。

か な 研 究 部

選評 善養寺 紅 風

今月のホープ作品

小林純風

かな研究部 特選 小林 純風
墨の潤渴が自然で、この古筆の特徴である彈力や
粘り、線の太細等がリズミカルに書かれ見事です。
日頃の丁寧な研鑽がうかがえます。

かな研究部成績表		評
か	な	中、最後の「」に誤りが多い
な	研究	この古筆の特徴である彈力や
研	部	わかりにくい箇所は字典や拡大
究	成	書きましょう。
成	績	からうかがえます。
績	表	い、この古筆の特徴である彈力や

こ	椿も千玉	京幸無五調春生こ白清華京前澄千椿前樹た洞玉上玉千も春や竜詢正高澄A八竹蕙高館英生蘭こ正大澄竜誠生松
だ	翠く葉松	橋扇門葉布汀大だ露月仙橋橋春葉翠橋原か書松泉川葉く汀ま泉扇華崎春I生美書崎山峰大鼎こ華阪春泉和大村
五	安新足青	吉山山森武富宮宮松真前堀別深平平春早浜濱橋中中戸戸渡田高鈴神神新清様櫻坂酒小吉菊川加加小植今石新青
安	足井木	田本中田藤野下川村府堀山山坂野田本坂澤村部子玉橋木保宮行水田田本井山瀬池崎藤野田村崎井木
風	美	内由惠明富
佳	代藤万葵	佑梅清陸惹樂洋陽佐栄魯信清彩つ勝梅永竹紅ゲ博藤紀哲雅利佳玉滿紀美智里知笙彩善優翠日萩美貴甘翠玉
代	子雪矯郷	子香玉子睦枝翠子子代子春子洗華子美艸薹雪霞子綾舟風子子泉子子枝子子舟美子洋雨高子陽夏光枝泉雨賣枝
澄	苑上	華誠千正稻八大翠蒼墨蘭附若詢う正彩千白梓広矯福竹琇書苑も梅上こ高こたA澄陽秀高誠澄千N彩正華耕有千
春	書泉	仙和葉華毛街阪吟陽花鼎中葉扇る華葉扇江島韻山扇韻游書く桃泉だ真だかI春陽明真和春葉H華祥雲秋葉
高	高鈴	新淡柴斎後近込小國工工木木岸菊神川川河加小小岡大大大梅梅生岩岩岩入井猪伊伊板石石生池
高	木木	橋藤藤山口板峰藤藤村原田地田元本島崎岡納野野部西沢石山原木瀬崎嶺上谷野又藤藤垣橋川駒田
高	木木	木木木木木木岸菊神川川河加小小岡大大大梅梅生岩岩岩入井猪伊伊板石石生池
幸	海代	睦智愛洋美桂喜闇美智由理山香順輝李東泰典茱紫桂絆星願久一淑星久星草美祥洋津都悠玉良敏良敏英青音洋晴散萩
幸	海代	英青音洋晴散萩

〈半紙の部 大賞作品〉

ごあいさつ

公益財団法人書道藝術院理事長 辻元大雲



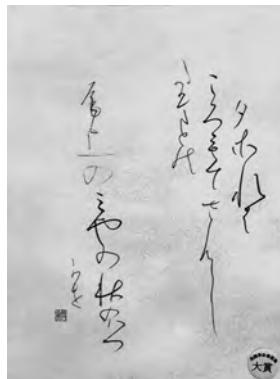
(中) 波多野 早 紀



(中) 森田 さや香



(小) 有吉 咲 良



(高) 中里智香



(高) 大野佳織

67回目を迎えることとなりました全国学生書道展は昨年に比べ若干の減少となりましたが、半紙、半切の部共々力をお寄せいただき感謝申し上げます。いずれも文部科学省學習指導要領に準拠した丁寧かつ意欲的な作品が多く感心しました。

半紙部門では普段の基礎、基本的な練習の成果として出品された作が多く、名前などもしっかり丁寧で立派でした。半切部門では中小学生は2文字課題による制作で、皆さんまじめに取り組んだ作ばかりで見事でした。普段より大きな紙で大きな筆を使って書いた気分はいかがでしたか。堂々と力強く書いた人、丁寧に気持ちを込めて書いた人など、それぞれ頑張ったことと思います。高校生大学生では自由課題で古典臨書や創作など、多彩で楽しい作が沢山ありました。

審査に当たっては、作品それぞれの良さ、取り組み方などをしつかり拝見し、公平にまた暖かい心配りを持ちながら行いました。今回の受賞を励みとして更に頑張ってください。

終わりに、ご指導いただいた先生方、ご支援ご協力くださいましたご家族ご関係の皆様方に深く感謝申し上げます。

〈半紙の部 準大賞作品〉

四年 平川さくら
新心に

六年 菊池瑛斗
の夢未來

中二 小西螢太
意決固

中二 小野寺晴香
雄山姿大

三年 中平望友
五穀豊穰

(小) 平川 さくら

(小) 菊池 瑛斗

(中) 小西 螢太

(中) 小野寺 晴香

(中) 中平 望友

中三 松尾颯
隨化終期於盡



高一 石田いろは
受胎灌歲

高二 中野めい
像有頭覆

(中) 松尾 颮

(高) 石田 いろは

(高) 山田 英佳

(高) 中野めい

〈半切½の部 大賞作品〉



(高) 中根夏海

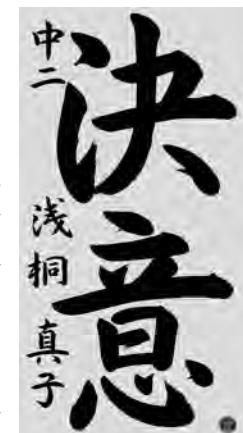


(中) 下村彩菜



(小) 鈴木姫凜

〈半切½の部 準大賞作品〉



(中) 浅桐真子



(小) 石原きらら



(高) 刈谷彩乃



(中) 高橋舞衣



(中) 伊藤千絵

第67回 全国学生書道展 「指導者作品展」役員作品



「敏」(甲骨文)
顧問 小伏竹村



「保」
顧問 香川倫子



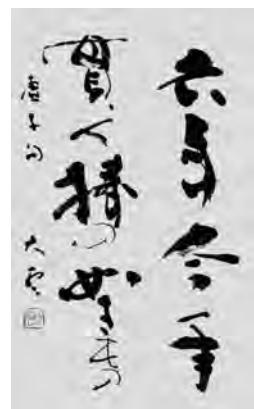
「吉」 顧問 恩地春洋



「神々」
常務理事 小竹石雲



「蘭石」
常務理事 大野祥雲



「去年今年」
理事長 辻元大雲



「梅が枝に」
常務理事 下谷洋子